金沢大学広報誌 | アカンサス

Acanthus

No.37
社会貢献号

02 [特集]大学の社会貢献ってどんなこと?
10 最新! 16学類NEWS
12 金沢大学の学生支援 キャリア支援・就職サポート
13 CIRCLE&PROJECT
14 CHALLENGE!
15 もっと知りたい! 進化する大学の図書館 番外編

特集 Q.大学の社会貢 献ってどんなこと?

大学の社会貢献というと，皆さんはどのようなものを想像しますか？ 学生の育成，新たな技術の開発，社会情勢の分析，附属病院での診療，学生のボランティア・・・。何となくは思いついても，そもそも大学の社会貢献とはどういうことなのか，なかなかピンとこない方が多いのではないでしょうか？
そこで，今号では，本学の社会貢献活動を取り上げます。
早速，本学の社会貢献担当 福森義宏理事に聞いてみました。

福森 義宏
理事（企画評価・情報・社会貢献担当）
副学長

昭和27年1月長崎県生まれ。大阪大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。
平成9年に金沢大学理学部教授。自然科学研究科長，理工研究域長などを経て，平成26年4月から現職。専門は生化学。

社会貢献は3本柱の1つ 大学のチカラで地域を変革

―― 社会貢献は大学にとってどのような位置付けなのでしょうか？

理事 その答えはおそらく，平成18年の学校教育法の改正の中にあると思います。昭和22年に制定された学校教育法では，大学の主たる役割は教育と研究であり，社会との連携には触れていませんでした。ですが，平成18年の改正により，大学は教育・研究の成果を広く社会に提供することで，社会の発展に寄与するとの条項が追加されました。ここから，大学の社会貢献とは，その教育・研究活動によって得られるさまざまな知識や情報，技術を社会に還元することであり，「教育」，「研究」と並ぶ大学の重要な役割の1つとして位置付けられたことが分かります。つまり，大学のミッションが3本立てになったわけです。

―― 知識や情報，技術を社会へ還元するために，どんな取り組みが行われているのですか？

理事 大学の教育や研究も長い目で見れば十分な社会貢献なのですが，より直接的に社会への還元をめざした取り組みとしては，大学の知見を生かした国際協力や公開講座[※1]，産学連携，地域課題の解決，地域の人材養成などが挙げられます。

―― 最近では，雑誌や新聞などで大学の社会貢献活動が取り上げられることが多いようですが，なぜ注目が集まっているのでしょうか？

理事 地方では人口減と高齢化が進み，地方自体の活気がなくなっていくことが大きな問題となっています。一方で，大学には若者が集まり，知識や情報，技術を持つ研究者がいるということで，地元の行政や経済界などからは，大学のチカラで地域にイノベーション（革新）を起こしてほしい，ある意味，地方再生の拠点になってほしい，という声をよく耳にしています。そういった状況が注目を集めている理由の1つではないでしょうか。

※1 公開講座

価値観の多様化，高度化する学習ニーズに対応し，一人一人の自発的な学習活動を支援するため，本学が，幅広い分野の講座を企画。市民の方々の生涯にわたる学びをサポートしている。

※2 石川県での若者人口の状況

石川県では，10代後半で転入超過となるものの，20代で大幅な転出超過となっている。これは，石川県には高等教育機関が集積していることから，大学等進学時に県外からの転入が多いためと考えられる。なお，全国的には三大都市圏以外の地域では，10代後半も20代も大幅な転出超過となっている。

石川県の年齢階級別人口移動（平成27年）
［出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」］

※3 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

大学が地方公共団体や企業などと協働し，地方における魅力ある就職先の創出・開拓と，その地域が求める人材育成のための教育カリキュラム改革に取り組むことに対し，文部科学省が支援するもの。詳しくはP14へ

※4 オールいしかわ体制

COC+事業を行うに当たり，県内8大学と20の自治体（石川県および全市町），18の県内企業・団体等で構成する「いしかわ学生定着推進協議会」を設立し，学生の県内定着に取り組んでいる。

※5 JMOOC教材「いしかわで学ぶ未来可能性」

「夢」と「志」を持って石川に定着することにより，国際的に魅力ある地域を創出できるよう，金沢・加賀・能登といった石川の魅力を深く理解することをめざす科目で，インターネット上で受講できる。本学では全学類必修科目である「地域概論」で教材として使われるとともに，一般の方も学べるようインターネットで公開されている。
https://www.fisdom.org/F00000002/

※6 いしかわインターンシップフェス

石川県（ジョブカフェ石川）といしかわ学生定着推進協議会が，県内企業への学生インターンシップを推進することを目的に毎年開催する予定のイベント。第1回となる今年度は，県内外の学生ち千名以上と，136の企業・団体が参加した。

また，教育・研究の成果の還元といった本来の大学の社会貢献活動とは少し違うのですが，最近学生たちが自ら積極的に地域に入り込んで，さまざまなボランティア活動をとおして地域の課題と向き合い，地域の方々から実社会のことを学んでいます。お互いにメリットのある関係になっていて，その活動が多くの人の目にとても良い印象として映っている，ということもあるのかもしれませんね。

若者の県内定着へ 学生と企業をつなぎ県内就職率UP

―― そのような状況で金沢大学が，特に力を入れている社会貢献の取り組みは何ですか？

理事 そうですね，先ほどもお話しした人口の減少について，石川県での若者人口の状況[※2]は，10代後半は大学進学などで増加しているのですが，20代になると就職などで県外へ流出している状況です。そこで，この状況の解決をめざし，本学が代表校となって，県内の8大学や全自治体，多くの企業と共に，産学官が連携した地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+（プラス）事業）[※3]を平成27年にスタートさせました。若者人口を増加させるため，この事業で何をするのかというと，「学卒者の県内就職率を平成26年度末の36.5%から平成31年度末には46.5%まで上昇させる」ことです。

―― 5年で10ポイントの上昇ですか？ それはかなりハードルが高そうですね。

理事 そうなんです。ですので，目標を達成するには，本学だけが頑張れば良いというものではなく，他大学や自治体，企業も巻き込んで「オールいしかわ体制」[※4]で取り組んでいく必要があります。なかなか厳しい目標なのですが，主に3つの取り組みで達成をめざしていこうと考えています。まず1つ目は，石川を知るためのインターネット教材の配信です。地域の歴史や文化，自然，産業をとおして石川県の魅力を伝えることを目的としたJMOOC教材「いしかわで学ぶ未来可能性」[※5]を作成し，本学の学生はもちろん，県内全ての学生が受講できるようインターネットで配信しています。2つ目は，石川県の企業と学生とのインターンシップにおけるマッチングです。年に一度，石川県内の企業が多数参加するインターンシップマッチング交流会「いしかわインターンシップフェス」[※6]を開催して，学生の地元定着を図っていきます。そして3つ目は，ベンチャーマインドを持った学生の育成です。石川県を盛り上げ，石川県で起業する，そんな学生を育てようと起業塾「いしかわ未来アカデミー」[※7]を開講し，起業家から経営スキルを学ぶ機会を提供します。

これら3つの取り組みをとおして，学生にはもっと石川県を，企業にはもっと学生を知ってもらい，学生と企業がお互いに惹かれ合うことで，県内学生の県内就職率が高まっていけば良いと考えています。

―― なるほど。それでは，そんな石川県の特性を生かした社会貢献の取り組みは，ほかに何かありますか?

理事　本学では，地域課題に取り組む人材や，自然と共生する持続可能な能登の社会モデルを世界に発信する人材を育成しようと，社会人を対象にマイスター育成プログラムを行っています。この取り組みは，既に10年ほど行っているのですが，平成28年4月からの「能登里山里海マイスター」育成プログラム[※8]では，珠洲市の協力などにより，社会人のための本科だけでなく，留学生を対象とした英語コースも新たに開講して，さらに内容を拡充しています。こういった事業ができるのは，石川県に豊かな自然を残す能登半島があるからこそ，だと思いますね。

また，公開講座では，金沢市にあるサテライト・プラザのみならず，能登の珠洲市や加賀の小松市などにもサテライト施設[※9]を設け，インターネット配信による同時中継で市民の皆さまにさまざまな学びの機会を提供しています。さらに，石川県ではないのですが，平成28年度からは，隣県の富山県南砺市にある世界遺産五箇山にも「金沢大学五箇山セミナーハウス」を開所し，ミニ講座「シリーズ 世界遺産で学ぶ」を開講しています。

研究成果を還元する 地域と世界を見据えた戦略

―― 金沢大学の社会貢献というと，やはり大学のある石川県やその周辺地域への貢献なのでしょうか?

理事　いえいえ。もちろん本学は石川県にある大学として地域と共に歩みますが，世界を見据えた戦略も掲げています。

例えば，本学は，今後「全学的に卓越した教育研究，社会実装を推進する取り組みを中核とする国立大学」となることをめざしているのですが，これを実現するための戦略の1つとして「世界と地域の環流による研究成果の社会実装」という戦略を掲げています。「社会実装」とは，研究で得られた成果を社会問題解決のために応用，展開することで，さらに，戦略の中では，共同研究，受託研究[※10]などに関する具体的な目標値も設定し，その達成をめざしています。

こういった企業などとの研究の成果は，この地域のみならず，日本全国，ひいては世界に還元されるものと考えています。

―― 最後に，福森理事の大学の社会貢献に対する思いを聞かせてください。

理事　私は，大学の社会貢献とは，それ単体で成し得るものではなく，大学の教育・研究活動が充実してこそ，その活動の先にあるものだと考えています。本学の教育・研究活動などで獲得されたさまざまな知識や情報，技術が社会に還元されるためには，まずは「教育」，「研究」という大学の重要な機能を十分に果たすことが一番大事だと思います。

※7 起業塾「いしかわ未来アカデミー」

学生らが起業を体験するプログラム。事業計画書を作ったり、ビジネスプランをまとめたりする座学に加え，学生自らが複数回にわたりビジネスを立ち上げるのが特徴。詳しくはP14へ

※8「能登里山里海マイスター」育成プログラム

平成19年度に能登の珠洲市や輪島市，穴水町，能登町などの協力を得て前身の「能登里山マイスター」育成プログラムを開始し，平成24年には名称を現在のものに改めるとともにプログラムも拡充。これまで県外からの移住者30名を含めた128名が修了している。

※9 サテライト施設

遠隔地配信システムを利用し，本学の学びと情報を双方向に発信することで，学びの場および市民交流の場となるよう設置されたもの。珠洲市は，「すず市民交流センター」内に，小松市は「小松ビジネス創造プラザ」の一角にそれぞれ施設が置かれている。

珠洲サテライト

小松サテライト

※10 共同研究，受託研究

共同研究とは，企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について対等の立場で共同して研究を行う制度。受託研究とは，企業等から委託を受けて本学の教員が業務として実施し，その成果を委託者に報告する制度。本学における平成27年度の共同研究と受託研究の合計件数は，469件であり，10年前と比べると約66%増えている。

企業や自治体などと連携した研究でより良い社会を

大学の役割の1つである研究。その成果を地域に還元することで，社会の発展に寄与しています。

若年層有権者を投票へ向かわせるために

人間社会研究域法学系／岡田 浩 教授

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ，新たな有権者となった若年層の政治意識や投票率などが注目を集めています。岡田教授は，金沢市選挙管理委員会との連携事業の一環として，さまざまな年齢層を対象に選挙に関するアンケート調査を実施し，若年層の低投票率の理由などを探っています。今後は，その調査結果を分析し，若年層の政治意識や投票率の向上を図るため，選挙啓発や投票環境整備のあり方について提言していく予定です。

アンケートの発送作業を行う研究室の学生ら

自動運転自動車で，高齢者に安全な移動を

新学術創成研究機構／菅沼 直樹 准教授

平成27年2月に石川県珠洲市と連携して自律型自動運転自動車の市街地一般道での走行実験をスタートしました。平成27年10月には実験ルートを当初の10倍以上の60km超に延長。実用化に向けて，着実に研究が進められており，「既に目標とする技術の約8割はできている」と，菅沼准教授は語ります。珠洲市では，市内中心部から離れた地区の公共交通が不便でマイカーを手放せない高齢者が多くおり，この研究に期待が集まっています。

開発中の自律型自動運転自動車

休耕地を活用し，薬草栽培で地域活性化

医薬保健研究域薬学系／佐々木 陽平 准教授

石川県白山市では休耕地の活用が課題となっていました。佐々木准教授は，白山市や地域の方の協力のもと，石川県産生薬の開発をめざし，薬草栽培試験地として休耕地を活用。平成27年度にはジオウやトウキなどの薬草を栽培して収穫を行いました。収穫されたこれらの薬草の根は医薬品としての活用を念頭に試験研究に使用されます。また，非薬用部位である葉は入浴剤として商品化され，白山市で既に販売が行われています。

白山市で収穫した薬草の葉が使用されている入浴剤

家族介護者支援へ向け，実態調査を実施

人間社会研究域経済学経営学系／寒河江（さがえ） 雅彦 教授

高齢者介護は現代社会における課題の1つですが，公的統計では要介護者を支える家族介護者の実態についての情報は多くありません。寒河江教授は，石川県小松市と連携し，同市の家族介護者の実態を調査。家族介護者の約3割が介護のために離職や転職を経験していることや，その年収が介護開始後平均150万円減少していることなどを明らかにしました。これらの結果は今後，同市の家族介護者への支援策などに生かされていく予定です。

小松市報告会の様子

石炭灰の再利用で，コンクリートを長寿命化

理工研究域環境デザイン学系／鳥居 和之 教授

北陸地方では，冬季の凍結防止剤散布や海風の影響でコンクリートの寿命が短くなっています。鳥居教授は，コンクリートにフライアッシュ（石炭火力発電所で排出される石炭灰）を混ぜると耐久性が高くなることに着目し，企業と共同でその技術を実用化。既に石川県と福井県の新設橋梁や北陸自動車道の一部で，開発したコンクリートが導入されています。また，平成29年度から始まる北陸新幹線敦賀延伸工事でもその使用が決定しています。

フライアッシュコンクリートが使用された宮坂橋歩道橋（石川県）

住民の健康を追跡調査し，健康づくりを推進

医薬保健研究域医学系／中村 裕之 教授

中村教授は石川県志賀町の住民を対象に健康づくりの研究を進めています。20年以上の長期間にわたって住民一人一人の健康状態を調査することで，生涯を通じた健康状態を記録し，個人単位で疾病の発生原因や予防方法のデータ分析を行っています。また，平成28年4月には，本学大学院先進予防医学研究科と志賀町が連携協定を締結。今後，同町での健康づくりを推進しながら，個人の特性に応じた保健指導プログラムなどの開発を進めます。

関節エコーの検査を受ける住民

地域の医療を支え，広く医療を提供する附属病院

本学附属病院は，日々の診療にとどまらず，石川県と連携しながらさまざまな取り組みで地域医療を支援するとともに，院外でも診療を行い，社会に貢献しています。

地域との連携による医療人材育成と診療支援

●地域医療支援と生涯教育を担う

金大病院CPD※センター

石川県の地域医療再生計画に基づき，本学と石川県，石川県地域医療支援センターが共同で立ち上げ，平成25年に附属病院内に開設された共同利用型施設です。ITを活用した地域医療支援を行うとともに，生涯にわたり医療技術を深く究める場として，石川県内の医療従事者に広く活用されています。

※Continuing Professional Development（継続的専門職業能力開発）の略

CPDセンターの取り組み

①情報通信ネットワークの活用による地域医療支援

テレビ会議システムを整備しており，遠隔地の医療従事者も本学附属病院に出向くことなく，CPDセンターで行われる症例検討会に同システムを通じて参加が可能です。参加者はお互いの顔を見ながら，リアルタイムに意見交換を行います。

②育成・生涯教育プログラムの充実

地域の医療従事者に対して，本学附属病院診療科の協力により，研修プログラムを実施しています。

③高度専門医の育成による医療水準の向上

内視鏡治療や血管内治療などの高度医療のトレーニングに取り組める，さまざまなバーチャルシミュレーターが設置されています。若手の医師や学生は，それらを活用し，高度なトレーニングを行っています。

主な施設の紹介

〈研修室〉

テレビ会議システムのほか，プロジェクターやスクリーンを完備。同システムを用いた症例検討会などの開催が可能です。

〈シミュレーター室〉

さまざまな最先端のバーチャルシミュレーターを備えています。写真は，内視鏡手術のシミュレーターでトレーニングを行う様子。

●地域の医療機関と診療情報を共有する

たまひめネット（金沢大学附属病院継続診療システム）

患者さんの同意のもと，本学附属病院における検査や診療記録などの診療情報を，他の医療機関とインターネットを通じて共有します。たまひめネットを利用する医療機関は，附属病院に移った患者さんの情報を継続して把握できるとともに，附属病院から患者さんを受け入れた際には，その情報を把握して診療が可能。患者さんの負担軽減や診察時間の短縮につながり，より充実した，一貫性のある診療を提供することができます。

また，たまひめネットは，石川県内の医療機関が診療情報を双方向で共有する「いしかわ診療情報共有ネットワーク」と接続しており，県内医療機関との連携を一層強化しています。

●地域医療を担う医師の確保に向けた

医学類特別枠

医薬保健学域医学類では，地域医療を担う医師の確保を目的として，推薦入試に特別枠を設けています。対象は，石川県と富山県の医療に貢献したいという強い意志を持った入学希望者で，石川県枠は平成21年度から，富山県枠は平成22年度から募集を開始しています。特別枠による入学者には，県から修学資金が貸与され，卒業後，知事が指定する県内の医療機関において一定期間診療に従事すれば，返還が免除されます。

平成29年4月からは，本枠で初年度入学した学生が，卒業後2年間の初期臨床研修を終え，本格的に医師として地域医療に従事・貢献していきます。

（平成29年度入試の本枠募集人員：石川県10名，富山県2名）

地域から世界まで，広域での医療支援活動

●最高難度の手術にタイでも成功

国境を越えた医療貢献

平成28年8月，医薬保健研究域医学系の村上英樹准教授らが，タイのコンケン大学にて，背骨のがん「胸椎悪性腫瘍」の摘出手術を行いました。今回手術を受けたのは，コンケン大学病院に入院する48歳の女性。本学が開発・実施している「次世代腫瘍脊椎骨全摘術」でしか救命できない状況であることから，コンケン大学からの要請を受け，村上准教授が手術を担当しました。

腫瘍脊椎骨全摘術は，脊椎に発生したがんを骨ごと全摘出する本学で開発された手術です。さらに，本学では同手術に改良を加え，取り出した骨の腫瘍細胞を液体窒素で凍死させ，その骨を元に戻して再利用する次世代腫瘍脊椎骨全摘術としました。脊髄を傷つけず，腫瘍だけを取り除く最高難度の手術でありながら，本学附属病院は年間20例近くの症例を重ねており，国内の他の大学病院と比較しても，その症例数は抜きんでています。また，同手術を輸血せずに行うことができるのは，世界中を見ても本学附属病院だけです。

現地では8時間に及ぶ大手術となりましたが，手術は無事成功。タイで初めて次世代腫瘍脊椎骨全摘術を成功させたとあって，村上准教授は現地メディアに大きく取り上げられ，タイ政府からは感謝状が贈られました。

タイ政府からの感謝状を受け取る村上准教授（左）

●医療救護班を派遣

熊本地震の被災者支援

平成28年5月，本学附属病院は石川県の要請を受け，熊本地震の被災者を支援するため，熊本県へ医療救護班を派遣。総合診療部の山下太郎准教授（派遣当時は助教）が，看護部の池川怜那看護師と南堀直之看護師と共に，医療救護活動を行いました。

現地では，他病院の医療チームと協力して避難所での諸活動に従事し，診察や病気のケアを行ったほか，被災者の声に耳を傾けながら医療ニーズの調査なども実施しました。

他の医療チームと打ち合わせを行う山下准教授（右から2番目）と池川看護師（右端）

●地域医療の機能向上のために

地域の医療機関で活躍

本学附属病院では，地域の医療を安定的に維持することを目的として，石川県を中心とした北陸の医療機関等に医師を派遣しています。

地域への医師派遣数	
平成24年度	463 件
平成25年度	477 件
平成26年度	494 件
平成27年度	478 件

社会への思いを力タチに。地域で活躍する学生たち

学生が自主的に行う多彩な活動も地域や社会を支えています。そうした活動を，学生自ら紹介します。

KuLOs代表
人間社会学域人文学類2年
畠山 輝（ひかる）さん

フェアトレードを広め途上国の生産者を支援【 KuLOs（クロス） 】

私たちは国際交流まつり，県民フェスタなどのイベントでフェアトレード商品を販売しています。フェアトレードとは，立場の弱い途上国の生産者らの生活改善などをめざし，適正な価格で原料や製品を購入する取り組みです。販売活動をとおして，フェアトレードを多くの人に伝え，途上国で生活する人たちのことを考えるきっかけにしてもらいたいと思っています。

CHECK★

バレンタインー揆

金沢大生にフェアトレードの輪を広げるため，金沢大学生協でフェアトレードチョコを購入した学生にフェアトレードコーヒーを無料で配布するイベントを行いました。

地域で子どもたちの学びを支える【 山代まちこや 】

子どもたちが楽しく勉強できる場として，石川県加賀市山代地区の児童館で現代版寺子屋「まちこや」を開いています。子どもたちに「勉強って楽しい」「分かった，できる」と実感してもらうため，工夫を凝らした教材を使い，遊びやクイズを交えるなど，試行錯誤を重ねています。これからも子どもたちが楽しみながら，理解を深められる授業づくりに取り組みます。

CHECK★

児童館のイベントとの合同授業

遊びを交えながら，季節ごとの行事や風習などを学びます。お正月の時期には，七草について学びつつ実際に七草粥を食べ，かるた遊びをして正月文化に触れました。

山代まちこや代表
人間社会学域学校教育学類3年
山崎 成実さん

KURE代表
医薬保健学域
保健学類3年
山本 佳奈さん

「ぬいぐるみ病院」で子どもの気持ちに寄り添う【 KURE（キュア） 】

「病院への恐怖心をなくしてほしい」そんな思いから始めたのが，保育園などを訪問して行う「ぬいぐるみ病院」です。ぬいぐるみを患者さんに見立て，私たちが医師や看護師となって診察・診療を行い，子どもたちと一緒に病気の予防法を考えます。医療者をめざす学生だからできることを考え，子どもたちの病院に対する不安を取り除いていきたいです。

CHECK★

健康教育への取り組み

子どもたちに健康について理解してもらうため，寸劇や紙芝居を行ったり，実際に聴診器を使って心臓の音を聞かせたりなど，さまざまな工夫を行っています。

福祉KtoY代表
人間社会学域地域創造学類3年
平岩 なつみさん

福祉のまちづくりをお手伝い【 福祉KtoY（ケートゥワイ） 】

一人暮らしの不安や寂しさ，生活での困り事を抱える高齢者を元気にしたいという思いから「新竪そくさいネット※」に参加し，地域の交流会や買い物支援の活動を行っています。高齢者の方の話に耳を傾けることで，生活支援のニーズをくみ取り，地域の方とともに自分たちができることを考えながら実践しています。

※金沢市「地域安心生活支え合い事業」の新竪地区における取り組み

CHECK★

フクシル ～福祉について知る会～

多くの学生に福祉の魅力を知ってもらうため，福祉関係者による講演やワークショップをとおして楽しく福祉を学ぶ「フクシル」を定期的に開催しています。

飛脚～HIKYAKU～代表
人間社会環境研究科博士前期課程1年
皆瀬 勇太さん

トランプで石川県の魅力を発信【 飛脚～HIKYAKU～ 】

石川県の魅力が伝わる写真を使用した「石川トランプ」の開発・販売を中心に活動しています。さらに，石川トランプを活用したイベントの開催や，独自の遊び方を伝える活動などを行い，遊びながら石川県のことを知ってもらえる方法も考えてきました。そして平成29年1月，ついに一般販売開始！ これからも「人と地域をつなげる団体」として活動の幅を広げていきます。

CHECK★

石川への愛が詰まったトランプ

石川トランプは「I Love（愛）石川」の頭文字にちなんだ14枚目のカード「I（アイ）」や自由に書き込める白紙を含め，1組58枚。絵柄の写真は，地域の方々の投票によって選ばれました！

留学生も地域に貢献！

留学生と小学生が異文化コミュニケーション

本学の国際機構留学生センターは，金沢市や小松市と連携して，留学生が小学校を訪問するプロジェクトを実施しています。児童が他国の文化に触れることで国際理解を深めるきっかけになればと，平成28年度は，金沢市の英語交流プロジェクト事業に17名，小松市のこまつグローバルゼミナール事業に3名の留学生が参加しました。留学生と児童が互いに母国の文化や遊びを紹介するなど，みんなで楽しく交流を深めました。

インドネシアからの留学生が，自国について紹介（こまつグローバルゼミナール）

最新! 16学類NEWS

金沢大学3学域・16学類から最新のとれたて「旬」な情報が届きました!
イベントや近況,注目の研究など
バラエティに富んだ金沢大学の現在を身近に感じてください。

人間社会学域

College of Human and Social Sciences

人文学類　資格取得の助成・支援制度

人文学類では学類生の各種資格取得の助成を行っています。例えば,「社会調査士(キャンディデイト)」の資格を取得する際には申請料の一部を助成するとともに,同資格の取得に必要な授業科目も開講し,在学中の資格取得を支援しています。学生らは就職活動などの場面で,資格取得で身に付けた専門能力をアピールしています。

社会調査実習の授業の様子

法学類　投票行動論ゼミが大学生コンペで優秀賞を受賞!

11月6日,岡田浩教授が指導する投票行動論ゼミが,日本地方政治学会・日本地域政治学会の大学生コンペ「18歳選挙権と民主主義:若者の政治参加に向けて」で,優秀賞を受賞しました。同ゼミは「意識改革のすすめ -スウェーデン帰りの主権者教育-」と題し,生徒会を中心とした新たな主権者教育を提案して評価されました。

経済学類　理論経済学Ⅲゼミが,日本学生経済ゼミナール地方大会で優秀賞を受賞!

12月18日,新潟大学で日本学生経済ゼミナールの第48回北信越ブロックインナー大会が開催され,4大学33チームが研究発表しました。同大会では,藤澤美恵子教授が指導する理論経済学Ⅲゼミの学生チームが金澤町家の再生ファンドに関する研究発表を行い,観光部門9チーム中で1番高い評価を得て,優秀賞を受賞しました。

学校教育学類　第64回教育研究発表会を開催

11月23日,附属中学校において第64回教育研究発表会を開催しました。環境保護や平和維持などに特化しがちな,わが国のESD(持続可能な開発のための教育)の現状を省察するとともに,持続可能な発展を実現させる上で重要な基盤力を明らかにし,それらを教科学習の中で日常的に鍛え,活用していくESDモデルを提案しました。

地域創造学類　地域における川と水のマネジメント・ガバナンスを考える

1月20日,石川県政記念しいのき迎賓館で「人工資本と自然資本のマネジメント・ガバナンスに関わる研究」を進める地域創造学類の研究グループが,研究会を開催しました。「地域における川と水のマネジメント・ガバナンス」をテーマに学内外の研究者が研究報告を行い,じっくりと議論を深める良い機会となりました。

国際学類　国際学類ランチタイム懇談会を開催

12月13日,国際学類ランチタイム懇談会を開催し,1年生から4年生までの学生約20名と教員が,授業・カリキュラム・留学などの学類に関する事柄について,自由に意見交換しました。「国際」の名が付く学部・学科などが次々と新設される昨今,学生の意見を参考に,魅力ある学びの場として国際学類をさらに充実させていきます。

ランチをとりながら,学生と教員が率直に意見交換

理工学域

College of Science and Engineering

数物科学類　学類生がインドネシア短期留学で国際交流を体験!

数物科学類は毎年インドネシアのバンドン工科大学と交流プログラムを実施しており,今年度も6名の学類生が約2週間同大に留学しました。学生らは,バンドン工科大生とともに数学・物理学・計算科学の講義を受けるなど国際交流。また,バンドン市周辺を巡り,日本では経験できない知的な刺激を受け,その視野を広げました。

バンドン工科大学で開かれた送別会

物質化学類　第3回物質化学専攻フォーラムを開催

10月31日,第3回物質化学専攻フォーラムを開催しました。本フォーラムは,学類生・大学院生・教員間の交流や研究活動の活性化を促進することを目的として,毎年行っています。今回は物質化学系の教員と博士後期課程の大学院生による講演が7件,大学院生によるポスター発表が32件あり,活発な討議と研究交流が行われました。

大学院生によるポスター発表

機械工学類　4ローラ式卓球マシンを研究開発

酒井忍助教の研究グループが,高性能卓球マシンの開発に成功しました。十字型に配置した4つのローラにより,ドライブやカット,チキータ(ジャイロボール)など卓球のすべての球種を任意の球速で発射できます。今後,発射性能をさらに向上させ,リオオリンピックの活躍で注目を集める日本の卓球界を技術面で応援します。

電子情報学類　セキュリティ・ミニキャンプを開催

12月3日,4日に,電子情報科学専攻は他大学などと共同で,セキュリティ人材育成プログラム「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸 2016(金沢)」を開催しました。初日の一般講演には70名以上が,2日目の専門講座には30名が北陸内外から参加し,コンピュータの動作とセキュリティ技術の実践について理解を深めました。

環境デザイン学類　微生物の力で環境浄化!次世代型環境技術を研究開発

水環境工学研究室では,微生物の力で下水や排水などの有害汚濁物質を無害でクリーンな物質に浄化する環境浄化技術(バイオリアクター)の開発に取り組んでいます。環境浄化に関与する微生物は99%以上が未知のものであり,その生態もまだまだ謎に包まれているため,心躍らせるような微生物を新たに発見することも夢ではありません。

バイオリアクター装置(左)と微生物の蛍光顕微鏡画像(右)

自然システム学類　大谷吉生教授が工業標準化事業表彰で経済産業大臣表彰を受賞

経済産業省平成28年度工業標準化事業表彰において,工業標準化への顕著な功績を挙げたとして,大谷吉生教授が経済産業大臣表彰を受けました。大谷教授は,JISの原案作成委員長としての尽力のほか,日本工業標準調査会の専門委員を務め,中核的かつ主導的な立場で国際標準・国内標準を推進したことなどが評価されました。

医薬保健学域

College of Medical,Pharmaceutical and Health Sciences

医学類　医学展 ー宝町キャンパスから現代医学を発信する

11月5日,6日,医学類生は,薬学類・創薬科学類・保健学類生とともに,現代の医学・医療を市民に紹介する毎年恒例の「医学展」を宝町キャンパスで開催しました。来場者参加型のブースを多く設置して,ロボット手術や内視鏡などの医療機器をはじめ,最先端の医学・医療を紹介。来場者らは現代医学への理解を深めていました。

「お医者さん体験ブース」で内視鏡の操作に挑戦

薬学類　病院実習で医療現場を体験症例報告会を開催

薬学類5年生は,学んできた基礎知識を臨床現場で実践することを目的に,附属病院薬剤部で11週間の病院実習を行いました。医師や看護師などの医療スタッフや患者さんがいる実際の医療現場において,薬物療法の専門家である薬剤師が担う病院実務を実習体験。症例報告会では,実習で体験した代表的な症例について発表しました。

薬学類・創薬科学類　医学展に薬学ブースを出展薬学を身近に

医学展の薬学ブースに,学類3年生が参加しました。ブースでは,風邪などの症状に用いられる漢方薬・小柴胡湯(しょうさいとう)の試飲と,同薬に使われている生薬の観察,ブロッコリーをすりつぶして行うDNA抽出実験,薬についてのクイズ大会を実施。多くの来場者がブースを訪れ,薬学を身近に感じてもらう良い機会となりました。

DNAの抽出に取り組む

保健学類　療育に関わる母親の健康サポート会を開催

横川正美准教授は,療育に関わる多忙な母親の健康を考える活動をとおして学生の地域志向感性を育てることを目的に,難聴児を持つ母親の健康サポート会を開催しました。理学療法学専攻の学生11名は,参加した母親10名の体力を測定し,普段の姿勢について簡単にアドバイス。子どもたちとも楽しく交流しながら,母親の健康を応援しました。

体力測定の様子

金沢大学の学生支援

キャリア支援・就職サポート

金沢大学就職支援室は，3つの取り組みを軸に，学生の就職活動を支援します。

1.自己分析と社会的・職業的自立力の育成

就職支援室は，学生が社会人として自立・自律するために必要な力を身に付けるプログラム「金沢就業塾」を提供しており，自ら「学び，実践し，気付く」成長サイクルによって，学生の自己成長を促しています。

学び

「ライフキャリアデザイン」や「キャリアディベロップメント」などの授業科目を設け，学生は1年次から，自分の将来や人生設計を考え，就業力向上に必要な知識やスキルなどを身に付けることができます。

実践

「学び」の実践の場として，さまざまなキャリア支援イベントを実施し，学生が社会と接する機会を創出。多くの社会人との交流を通じて，自身の将来像を明確にしていきます。

本学のOB・OGが全国各地から集まり，就活の体験談や仕事のやりがいなどを在学生に伝えます。

気付き

学生は，本学独自の指標「就業基礎力12の力」を用いたツールを使って，1年次から自己分析を行い，自分の長所や短所を把握。本学が入手した企業の人材ニーズと自己分析の結果を比べ，自分の足りない力を伸ばすなどの目的意識を持って「学び」や「実践」のプロセスに取り組んでいきます。

就業基礎力12の力

社会的・職業的な自立に必要な力を12の指標に分類したもの。

2.一人一人に合わせた個別サポート

就職支援室が実施する就職相談は，年間のべ2,800人が利用しています。専門のキャリアカウンセラーが個々に相談を受け，面接練習やエントリーシートの添削などに応じます。

3.独自の就職支援プログラムの実施

就職支援室では，就職支援イベントを年間100回以上開催。民間企業・公務員・教員などの志望先別にプログラムを設け，学生の就活スケジュールに合わせて実施しています。

〈 民間企業志望者向けプログラム 〉

［お問い合わせは金沢大学就職支援室まで］　平日9:00～17:00 金沢大学角間キャンパス本部棟2階 TEL:076-264-5265

輝く金沢大生

CIRCLE&PROJECT

金沢大学で活動するサークルやプロジェクトをピックアップして紹介します。

CIRCLE ／ 吹奏楽団

愛と感謝を胸に，地元・金沢で奏でるメロディー

平成28年10月，金沢で開催された「第64回全日本吹奏楽コンクール」に出場し，見事銀賞に輝いた吹奏楽団。会場を魅了した彼らの演奏には，愛と感謝が込められていました。

全国大会への出場は5年ぶりで，全員にとって初めての経験。大学の授業や試験の関係で，メンバーのスケジュールが合わず，全体での合奏が思うようにできない時期が続くなど，本番への不安が募りました。そんな状況でも，個々に練習を積み重ね，合奏練習ができる週末の時間を大切にして，全体の音と団員の気持ちを合わせていきました。また，今年の全国大会は地元・金沢での開催。「地域の皆さんには，普段から発表の機会を頂いている。感謝の気持ちを演奏に乗せて届けたかった」と，団長の北野志怜（しれん）さん（電子情報学類2年）は振り返ります。吹奏楽団は，年2回の定期演奏会や金沢市内での巡回演奏など，地元での演奏の機会も多く，全国大会の前には地域の方々から応援の言葉が寄せられました。

コンクール本番では愛がテーマの楽曲「カントゥス・ソナーレ」を自由曲として披露。息の合った力強い演奏には，会場から盛大な拍手が送られました。吹奏楽団が奏でるメロディーは，これからも地域の人々に感動を与えていきます。

「第57回北陸吹奏楽コンクール」で金賞を受賞して，全国大会出場を決めました

合奏練習では，リズムや音程などを互いに確認し合い，1つの音を紡いでいきます

PROJECT ／ 金沢市選挙サポーターE7（イーナ）

若者目線の創意工夫で若年層の政治意識を変えていく

E7は若者の政治意識の向上をめざし，選挙啓発活動を行う学生団体。E7創設者の野崎美里さん（法学類4年）は，金沢市選挙管理委員会でのインターンシップを通じて，市内の若年層の投票率の低さや政治への関心の薄さを知り，危機感を抱きました。「政治を身近に感じてもらえる活動が，自分にもできないか」と思い立ち，平成28年5月にE7を結成。金沢市選挙管理委員会からの協力も得て，17名で活動しています。

野崎さんの思いを受け継ぎ，新代表となった野坂藤生（とうせい）さん（法学類3年）は，「中高生が楽しく選挙に触れ，政治に関心を持つきっかけにしたい」と考え，金沢市内の学校を訪問し，選挙の仕組みや大切さを伝える「出前講座」に取り組みます。中学校では，E7のメンバーが選挙の候補者役となり，生徒の興味を引くように，公約として給食のグレードアップや休み時間の延長を掲げるなど，工夫を凝らした演説を実施。その後，実際の選挙の投票箱や投票用紙を使って模擬投票を行いました。「若年層の政治意識を少しずつ変えていきたい。小さな変化が次第に大きくなってほしい」と話す野坂さん。E7の意志とアイデアが，若者の心を動かします。

E7のロゴマーク

「E7」の名前は，Eから始まる以下7つの単語に由来します。
・Election（選挙）
・Everybody（市民全員）
・Essential（必要不可欠）
・Enjoyment（喜び）
・Emotion（感動）
・Explore（探求）
・Entrance（入り口）

平成28年夏の参議院選挙では，街頭で投票を呼びかけました

Kanazawa University

CHALLENGE!

金沢大学は「オールいしかわ体制」で学生の県内定着にチャレンジします！

本学は，平成27年度に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）」に採択され，地方創生の中心となる「ひと」の地方集積をめざす取り組みを行っています。

文部科学省 地（知）の拠点 × 金沢大学

COC＋事業では，石川県をフィールドとする地域思考型教育を展開し，学生の県内定着率向上をめざします。地域を知り，地域の課題解決に挑戦し，地域をリードする人材を育成するため，本学を含めた県内の8大学，全自治体，企業などが連携し，「いしかわ学生定着推進協議会」を発足。「オールいしかわ体制」でさまざまな取り組みを実施しています。

地域思考型教育の3つの取り組み

- **人生の価値観を探る —なぜ石川に住むのか—**
  石川を学ぶためのICT教材の開発・実施 など
- **地域でどう生きていくかを考える —何を達成するのか—**
  地域の企業を深く知るインターンシップの開発・実施 など
- **地域で何をすべきかを考える —どうやって達成するのか—**
  起業塾「いしかわ未来アカデミー」の開講 など

取り組みの1つを紹介！

学生のための起業塾「いしかわ未来アカデミー」

いしかわ学生定着推進協議会が，起業を学ぶビジネススクール事業を展開する株式会社ウィルフと協働で，県内の学生を対象に6カ月間，全22回のカリキュラムで実施しています。起業に必要な経営スキルを起業家から学びながら，実際に独自の事業を立ち上げる起業体験を通じた「実践」を3回行います。この取り組みをとおして，起業マインドや経営的視点を養い，どのような環境でもピンチをチャンスに変える力を持った，石川の未来を創る創造的（クリエイティブ）人材の育成をめざします。

実践1 eコマース
インターネットによる販売事業を立ち上げます。

実践2 対面販売
お客様のリアルな反応が見える対面販売事業に取り組みます。

実践3 いしかわの課題解決
石川県が抱える課題の解決につながるビジネスを実施します。

＼起業体験をPickUp!／

実践2 「加賀棒茶みるくてぃ」販売

石川県産の素材にこだわり，株式会社丸八製茶場の加賀棒茶と株式会社ホリ乳業の低温殺菌牛乳を組み合わせた「加賀棒茶みるくてぃ」を開発。観光客を顧客ターゲットに，金沢駅やひがし茶屋街のカフェに売り込み，期間限定商品としてメニューに加えられました。

加賀棒茶みるくてぃ

事業を立ち上げた学生ら

学生の声
より良いものを作りたいという思いから，原価は少し高かったですが，茶葉・牛乳ともに品質の良いものを使いました。事業に取り組む中で，売り上げの予想金額や数量などの「見込み」は，たくさんの根拠を基に予測する必要があるということを実感しました。
人間社会学域国際学類2年　市川 大成さん

実践3 「石川県大学フットサルリーグ」の創設支援

石川県のフットサル人口が少ない現状を課題と捉え，県のフットサルを盛り上げ，多くの人に普及させるため，「石川県大学フットサルリーグ」を創設する事業を立ち上げました。交渉の末，多くの企業から協賛を得て，平成29年春からリーグ開催が実現します。

石川県大学フットサルリーグ創設記念大会にて

学生の声
企業の協賛を集めることは大変でしたが，最短で目標に到達するため，協賛してくれる企業の要件を考えた上で，その要件に合った企業に対してアプローチし，交渉しました。事業では，仲間の得意分野や人脈を生かすことが肝となり，人と人とのつながりの重要性を強く感じました。
人間社会学域法学類3年　甘田 光さん

もっと知りたい！ 進化する大学の図書館 **番外編**

金沢大学資料館

35号から連載で本学の図書館について紹介してきた本企画。最終回は図書館特集番外編として金沢大学資料館を紹介します。資料館は中央図書館内にありますが，独立した1つの施設。その役割はますます重要になってきています。

貴重なコレクションが勢ぞろい！ 資料館に行ってみよう！

資料館は，本学に関する文書・資料の収集，保存を行い，教育研究に資することを目的としています。本学が平成元年に金沢城内から角間キャンパスへ移転する際，前身校から引き継いだ貴重な資料を保存・公開するために設置されました。所蔵する資料を生かし，年間を通じてさまざまな企画展等を開催しており，館内だけでなく学内外での出張展示も行っています。

①

②

③

資料館が博物館相当施設に！

資料館は，平成28年4月，文部科学大臣から，北陸地区の高等教育機関では初となる「博物館相当施設」の指定を受けました。博物館相当施設とは，博物館の事業に類する事業を行う施設です。これにより，国や財団などの事業への申請が可能になり，また，地域の文化施設との共同企画展も多く実施できるようになりました。

平成28年度に資料館主催で行われた展覧会

ナニコレ

貴重な学術資料にもかかわらず，一見すると「何これ？」と思うものを集めて展示。Q&A形式で来場者の興味をかき立てるコレクション展を開催しました。

ガラスの博物誌

正倉院ガラス器（レプリカ）のような古代ガラスや角間キャンパスで発掘されたガラス製小玉から現代の先進的なガラスまでを展示。また，自然界に存在するガラス物質についても金沢大学で行われた研究に基づいて紹介しました。

ハカリモノ

博物館実習を受講する学生による企画展。本学に残されている江戸時代から明治時代の科学実験機器を展示し，「ハカル」ということに着目してその魅力を分かりやすく伝えました。

キキ 出張展示

石川県立自然史資料館と共同で開催した企画展。両館が所蔵する当時の学生たちが使用していた科学実験機器類を，本学の前身校である旧制第四高等学校の校舎であった石川四高記念文化交流館で，展示しました。

④

＼資料館できっと新しい発見があるはず。ぜひ足を運んでみてください♪／

金沢大学資料館 Kanazawa University Museum

- 場所／中央図書館内
- 開館時間／10:00〜16:00
  ※特別展の開催期間中は延長することがあります。
  詳しくは資料館Webサイトをご覧ください。http://museum.kanazawa-u.ac.jp/
- 休館日／土・日曜日，祝日，年末年始（12月28日〜1月3日），中央図書館休館日
  ※その他館内の展示替え，大学の行事などによって，休館する場合があります。
- 入館料／無料

平成27年度来場者数 約8,300名 ｜ 収蔵資料数 約86,000点

①本物そっくり。貴重なロウ製のキノコ標本。②音を発生させて，その振動数を計る機器。③文字で通信する電話の祖先。④大正から昭和初期の恐竜模型。

金沢大学広報誌「Acanthus」No.37
アンケートにご協力ください

「Acanthus」に関する皆さまのご意見・ご感想を同封はがきまたはQRコードのWebサイトでお寄せください。頂いたご意見は今後の誌面作りの参考にさせていただきます。なお，アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名さまに，金沢大学オリジナルクリアファイルを5枚1セットでプレゼントいたします。

※プレゼント当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

【応募締切】平成29年6月末日

KANAZAWA UNIVERSITY

発行日／2017年3月1日　発行／金沢大学 総務部 広報室　〒920-1192 金沢市角間町 TEL (076) 264-5024 koho@adm.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配付を毎号希望される同窓会には有償で増刷いたしますので，所要数をご連絡ください。